

2019年度総括シンポジウム&ミニマルシェ 農業を支える水利の力



「水利が拓く実りの明日へ」
キャンペーン



パネルディスカッション

未来へつなぐ農業と土地改良 ～生産・土地改良の現場から～

- 出演者…… 岩坂 省三さん (栄北部株式会社 代表取締役社長)
高塚 俊郎さん (タカツカ農園代表)
池田 広之さん (JA佐渡水稲部会長)
佐藤 毅さん (北陸農政局新潟県拠点・総括農政推進官)
伊藤 忠雄さん (新潟大学名誉教授)
- コーディネーター…… 伊藤 忠雄さん (新潟大学名誉教授)



《講師》尾畑酒造「真野鶴」五代目蔵元
尾畑 留美子さん

基調講演

佐渡から世界へ “旅する地酒、は生産地の 魅力を伝える語り部

プロフィール

1965年、佐渡市出身。慶応大学法学部卒。
日本ヘラルド映画(当時)の宣伝プロデューサーを経て95年、生家の蔵を継ぐ。廃校となった小学校を仕組み蔵として再生させる「学校蔵プロジェクト」に取り組むなど、島の活性化、島の魅力発信に力を入れている。尾畑酒造専務取締役。

過去から現在、そして未来にわたり地域を支え続ける農業水利をテーマにした「水利が拓く実りの明日へ」キャンペーン。2019年度の総括シンポジウム&ミニマルシェが1月25日、新潟市中央区の日報ホールで開催されました。佐渡市の尾畑酒造「真野鶴」五代目蔵元、尾畑留美子さんが基調講演、県内の生産者らによるパネルディスカッションなどが行われ、約140人が、農業水利の役割や重要性について理解を深めました。

省力化で活動の場拡大

タカツカ農園代表
高塚 俊郎さん

コメと柿、食品加工が経営の3本柱です。最も広い田んぼは1枚約3畧、給排水口が5つあり、調整は1カ所だけで済みます。漏水がないので見回りが極端に省力化でき、地下水位も調節できます。就農以来、面積は3倍以上になりましたが管理にかかる時間は減っています。その時間を活用し、NPO法人として子ども向けの農業体験や食育を行うほか、地域の祭りにも参加しています。

排水機場は地域の命綱

栄北部株式会社代表取締役社長
岩坂 省三さん

旧栄村(現三条市)で1982年に設備共同化のため稲作組合を立ち上げ、その後大豆転作を合理化するため株式会社を設立しました。コメと大豆を順番で作付けするブロックローテーションによる大規模圃地化を進めています。これは土地改良事業では現場条件がよくなったおかげです。

園芸の振興へ基盤整備

北陸農政局新潟県拠点
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算出額(2018年)は、山形県に抜かれ、13位と順位を下げました。園芸の振興が本県の課題であり、水田でも園芸作物を栽培できるよう、排水改良事業の今後の役割です。

豊かな自然生かし こだわりの酒造り

新潟は酒造りの三大要素である「コメ」「水」「人」に恵まれています。パラエティに富んだ五つの蔵元がある佐渡でいえば江戸時代、金銀山で働く人々の食料を賄うため、コメが多く作られました。島内の軟水は柔らかい味味の酒を生み、粘り強い県民性は酒造りに適しています。トキが舞う豊かな自然を加えた「四宝和醸(しほうわじょう)」が当社のモットーです。



古里の実り次世代へ 十分な議論が不可欠

コーディネーター
新潟大学名誉教授
伊藤 忠雄さん

土地改良事業によって本県農業は構造改革が図られ、経営の大型化が進んでいきました。組織が連携し、もたらした農業に取組む岩坂さんのような形態は、今後の農業にとって重要な方向性を示しています。

認証米栽培 トキと共生

JA佐渡水稲部会長
池田 広之さん

私が農業の後継者となった当時「一番水」という制度がありました。ベテランの農家が田んぼを回り一定時間、配水する仕組みです。小倉ダムが完成し、各地域で給水が始まったことでこの制度はなくなり、田んぼの田んぼを含む約1400haの基盤整備が計画されていますが、一部にジオトップを造成する予定です。

園芸の振興へ基盤整備

北陸農政局新潟県拠点
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算出額(2018年)は、山形県に抜かれ、13位と順位を下げました。園芸の振興が本県の課題であり、水田でも園芸作物を栽培できるよう、排水改良事業の今後の役割です。

省力化で活動の場拡大

タカツカ農園代表
高塚 俊郎さん

コメと柿、食品加工が経営の3本柱です。最も広い田んぼは1枚約3畧、給排水口が5つあり、調整は1カ所だけで済みます。漏水がないので見回りが極端に省力化でき、地下水位も調節できます。就農以来、面積は3倍以上になりましたが管理にかかる時間は減っています。その時間を活用し、NPO法人として子ども向けの農業体験や食育を行うほか、地域の祭りにも参加しています。

園芸の振興へ基盤整備

北陸農政局新潟県拠点
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算出額(2018年)は、山形県に抜かれ、13位と順位を下げました。園芸の振興が本県の課題であり、水田でも園芸作物を栽培できるよう、排水改良事業の今後の役割です。

参加者の声

「不便とは思っていません。佐渡でこんなにもたくさんの挑戦がされているとは驚きました。尾畑さんの話に感動。40代女性。若い人たちが農業に目を向け、農業だけで生活が成り立つような取り組みの強化が必要ですね。若い人に夢を与えられるようPRしていただきたい(50代女性)。農家だけでなく消費者と一緒に農業を支えなくてはなりません。土地改良の技術という視点があったので、勉強になりました。50代女性。初めて参加しましたが大変勉強になりました。今後ともぜひ続けてください。(70代男性)」

園芸の振興へ基盤整備

北陸農政局新潟県拠点
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算出額(2018年)は、山形県に抜かれ、13位と順位を下げました。園芸の振興が本県の課題であり、水田でも園芸作物を栽培できるよう、排水改良事業の今後の役割です。

園芸の振興へ基盤整備

北陸農政局新潟県拠点
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算出額(2018年)は、山形県に抜かれ、13位と順位を下げました。園芸の振興が本県の課題であり、水田でも園芸作物を栽培できるよう、排水改良事業の今後の役割です。

ミニマルシェ

日報ホール入り口のホワイエではミニマルシェが開催されました。紙面に登場した生産者らが農産物や加工品を販売し、「水利の恵み」を求める来場者でにぎわいました。



園芸の振興へ基盤整備

北陸農政局新潟県拠点
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算出額(2018年)は、山形県に抜かれ、13位と順位を下げました。園芸の振興が本県の課題であり、水田でも園芸作物を栽培できるよう、排水改良事業の今後の役割です。

プロフィール

1944年、新潟市生まれ。67年、新潟大学農学部卒。専門は農業経営学。同大教授、副学長などを歴任。2010年に退職。15年3月まで放送大学新潟学習センター所長。12年から5年間、県内の先進的農業経営者を講師に招き、実践的経営塾を主催する「新潟農業経営塾」を主宰。現在、新潟市農業活性化研究センター名誉所長として新潟農業の課題などを問題提起している。

園芸の振興へ基盤整備

北陸農政局新潟県拠点
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算出額(2018年)は、山形県に抜かれ、13位と順位を下げました。園芸の振興が本県の課題であり、水田でも園芸作物を栽培できるよう、排水改良事業の今後の役割です。

園芸の振興へ基盤整備

北陸農政局新潟県拠点
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算出額(2018年)は、山形県に抜かれ、13位と順位を下げました。園芸の振興が本県の課題であり、水田でも園芸作物を栽培できるよう、排水改良事業の今後の役割です。